

1 文献名
『安楽島小学校百年史』
2 学校名
安楽島小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
<p>（1）雨や風、地震などの様子</p> <p>ラジオの天気予報は、台風の規模が超大型であることを予告し、上陸地点は近畿地方で、鳥羽地方にとって最悪のコースをとるおそれがあると報じていた。</p> <p>午後 7 時頃、電灯が消えた。暴風雨が最も激しくなってきた午後 8 時頃から、瞬間的にすごい雨と風が、校舎南側にたたきつけた。午後 9 時頃、第一校舎西教室 n ガラス窓が吹き飛ばされ、東教室の床上でガラスが碎ける音がしたが、危険で近寄ることもできなかった。このようなすさまじさと不安が午後 11 時頃まで続き、12 時頃から徐々に静けさをとりもどした。（P124）</p>
<p>（2）学校内や地域の被害の状況</p> <p>高潮のおそれがあるというので、海岸近くの町民が、親子で校舎に避難してきた。（P124）</p> <p>翌朝（27 日）巡視した結果、第一・第二校舎南側の屋根瓦が多数まわれ、第三校舎西側の囲い杉皮がはぎとられていたが、備品諸設備には異状はなく、小修理を除いて大きな被害はなかった。</p> <p>鳥羽市内で二十億円の損害が出た。（P151）</p> <p>市内の小中学校の大半は、全壊または半壊という状況の中で、校舎の損害は軽微であった。（P124）</p>
<p>（3）復旧の様子</p> <p>授業を一日も欠かすことなく継続された。屋根瓦や囲い等の損害は、工事費六万円を要して工事が行われ、12 月下旬に完工した。（P125）</p>
<p>（4）体験談</p>
<p>（5）教訓など</p> <p>（校舎の）損害が軽微であったのは、第一に、平素の管理がよく行き届き、第二学期開始と同時に台風に向けて、修理等を行ったこと、宿直巡視の時、戸締りを厳重にしたこと、第二に、明治 35 年建築の校舎は、加布良古の巨木が建築用材として用いられ、老朽校舎とはいえ、頑強であったことである。（P124～125）</p>
<p>（6）その他</p>